
東方粒子黙

Xsis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方粒子黙

【Nコード】

N8185Y

【作者名】

Xsis

【あらすじ】

うおんでっど・・・この小説は処女作です。

これは作者の妄想から生まれた作品です。

最強チート（燃費悪し）な主人公が送る無双（笑）系東方。

プロローグ・・・あとキンクリ？（前書き）

文がひどいかもね

プロローグ・・・あとキンクリ?

~~~~~side~~~~~

「ありがとうございました〜(棒)」

あらかじめ棒読みな店員の声を背中に受け、俺はコンビニを出た。

「楽しみだな〜」

予約していたゲームとコーラ片手に俺は鼻唄混じりで歩いていた。

「ん?・・・なんだありゃ・・・」

フラフラと走っている危険な大型車を見てつぶやく・・・

「・・・!運転手寝てんじゃねえか!?!」

うつすら見えた運転席にはハンドルに身を委ねているオッサンが・・・!?

「ヤバイヤバイヤバイ・・・しかもこっち来てるし!?!」

そう思った瞬間には目の前に大型車が・・・!

(・・・随分とテンプレートな死因だな・・・)

と思った瞬間俺は強い衝撃に襲われ意識を手放した・・・

・・・

(ん・・・こ・・・こ・・・は・・・?)

視界がぼんやりしている・・・病院か・・・?

（視界が・・・ん？・・・ここ・・・）

目の前には知らない男女二人がうれしそうにこっちを見ている・・・  
（・・・もしかしてもしかしなくても・・・）

そう思い耳を澄ます・・・

「君に・・・かわ・・・子だ・・・」男の声・・・？

「あなたに・・・たく・・・うな・・・男の・・・」こんどは女・・・？

・  
・  
・

（・・・やっぱりアレか・・・転生ってやつか・・・）

・・・眠い・・・子供になったから・・・？

（・・・今は休もう・・・）

そう思い俺は寝ることにした

・・・幸い無意識に泣いていたそうで不信がられることはなかった

それから13年後・・・物語は動き出す・・・

ブログ・・・あとキンクリ？（後書き）

・・・13年はやりすぎかな？

キンクリ後・・・(前書き)

やりすぎたかも(キンクリを)

## キンクリ後・・・

テンプレ過ぎる転生から13年後・・・年が経ちすぎ？作者に聞け

俺は今14歳だ・・・ここまでで分かったことを話す・・・

ここは古代の世界みたいなもんだ・・・服はしっかりしている・・・  
次に俺の名前だが・・・転生前と同じで良かったよ・・・え？教えろ・・・？

・・・俺の名前は・・・

「ジン」

・・・昔の苗字は佐伯だ・・・さえきじゃない・・・サハクと読むんだ・・・

厨二臭いな・・・やっぱ・・・

俺はこの世界で10年間いろいろなことをやった・・・え？4年間どうしたって？

ガキが家から出してもらえと思うなつつうの・・・

この世界で分かったことがたくさんある・・・

・この世界は苗字という概念がない

・変なところで発達している・・・織物とか・・・

・主食は肉だった・・・最初は不味かったが慣れると良いものだ・・・

・

・俺のことなんだが・・・神童とか言ってもてはやされている・・・



なぜかって？

一部の大人しか読めなかった文字をすらすらと読んだこと・・・  
そしてなにより身体能力がハンパなかったんだ

3mくらいの高さなら余裕でジャンプできた・・・自分でも怖い  
よ・・・

そんなときに俺の第二の人生いを変える出来事が起こった・・・  
俺たちが住んでる村を大嵐が襲ったんだ・・・

そんな中俺は・・・

もう一度死んだ。

随分とエグイ死に方だったよ・・・  
大岩が飛んできて  
グシャッ・・・だからね・・・

そんな俺は不思議な事に・・・

もう一度転生した・・・

今度は前の世界・・・一回目の転生の世界よりも文明が進んでた稲作があったから・・・縄文後期か弥生時代かな・・・？

で・・・だ・・・

（書く技量がないので超カット）

二十数年がたった・・・（速すぎるか？）

俺は旅に出ていた。

追い出されたからだ・・・

俺は異端だと・・・

仕方ないよなあ・・・

なぜか髪の色が脱色して灰色になったし・・・

なんか変なことが出来るようになった

俺の周りを蒼や翠の粒子が舞うようになった

・・・ON、OFFは出来るがどのようにして使うのか分からないのでOFFにしてある

旅の途中・・・

謎の眠気に襲われた

（・・・なん・・・だ・・・？急に・・・体が・・・重く・・・Z Z  
Z）

パタッと言う軽い音とともに彼は倒れると

・・・

蒼と翠の粒子となって消えた・・・

キンクリ後・・・(後書き)

・・・これで東方世界に入ります。  
無理やりすぎましたね？

## 主人公設定（予定）（前書き）

サブタイまんまです

## 主人公設定(予定)

主人公

名前 佐伯 迅 (この小説ではカタカナで書きます)  
サハク ジン

能力 粒子を司る程度の能力

モチーフ GN粒子(ガンダム00) いろんなゲームの粒子  
メイプルストーリーの技  
アーマードコアのコジマ粒子

はっきりに言ってチート。本気になれば弾幕すら無効化できる。  
ワープしたり(スキマ涙目)

シールド作ったり武器にしたり、超万能。  
周りに拡散した妖力や神力を吸収できる

その他の能力(Fete風に)

筋力A- (普通の鬼とかち合って勝つ程度)

魔力B (マスパ1, 5発くらいなら撃てる)

妖力EX+ (能力のおかげでほぼ無限)

霊力A+ (同上だが容量が少ない・・・といっても霊夢の0、9倍くらいだが)

神力S (なぜかある・理由は後ほど)

俊敏EX (天狗に余裕勝ちする程度)

幸運S+ (ひよんな事から旗が立つ程度)

## 人物紹介

2回死んで東方の世界に入った。原作知識有り。  
予定としては 元人間 三分の一妖怪 三分の二神 の予定。  
実力は

ジン≫≫(越えられない壁)≫霊夢≧紫≫≫幽香||幽々子≫≫  
聖>神奈子≧諏訪子>>その他

容姿は灰髪でロングを首の後ろで束ねている。身長は187くらいでかなり高い方。

顔は中性的で整っている。はっきり言ってイケメン。

(・・・)

イケメン爆ぜろ♪)

・・・こんな感じかな?今はこんな感じです。何かあったら修正します

ここは・・・？**(前書き)**

東方の世界入りです

**(幻想入りではありません)**



「は……？」

「……う……う……ん」ムクッ

一体なんなんだ？急に眠くなったと思ったら……

「……あれ？森？」

さっきまで俺は荒野にいたはずだが……

「とりあえず、何か探すか……」

俺は立ち上がり歩き始めた……

2時間後……

「なんなんだここはあ……！！」

2時間歩いて何も見つからないとか……

「おかしいだろ……ハア」

ため息をつくると近くの草むらが揺れた

「ん？動物か？」

そう思い近付く……。

『ギエエエエエアアア！！！！！』

「どわあああああ！？」

ば、化け物！？

その容姿は張り裂けた口、太い尻尾、4本の足、まさに異形だ。

『ギシエエエエア!!!!』

「!?!? かはっ!?!」

なんだなんだ一体!?!?

いきなり突き飛ばされ俺は肺の中の空気が全部出た感じがした。

「ゴホッゴホッ・・・ッなんだよ一体!?!?・・・ってうわああああ  
!?!」

こっち来るな!?!? デカイ口開いてこっちくんな!?!?

「・・・グアッ!」

足・・・!?!?

「うわああああああ  
足がない!?!?

「ハア・・・ハア・・・」

死ぬ・・・のか? また? 今度は喰われる形でか・・・?

『ギシエエアアアアアア!!!!』

もう・・・嫌だ! 死にたくない!!!!

『シエエアアアアアアアア』

「うわああああああああ!?!」

喰われると思い眼を瞑った瞬間・・・!

『シャアアアア!?!?!?』

「・・・あれ・・・?」

恐る恐る眼を開ける・・・すると・・・

「なんだこれ・・・!?!」

俺と化け物の間に翠とも蒼とも言える壁があったのだ・・・

「・・・あれ？・・・あしが・・・ええ！？治ってる・・・？」

足が何事もなかったのように生えていた・・・

「どういことだ・・・？・・・ッ！」

化け物が再び喰いかかってきた！？

「うわああ！？」

眼を逸らし手を向ける・・・

シューイン                      グシュッ

『シェアアア・・・』

「・・・？なんだ・・・？・・・ッ！なんだこれ！？」

そこには    碧の剣とそれに刺さって両断された化け物が・・・！

「どういことだよ・・・っとにかく森から出よう」

俺は不振に思いつつ行っていない方向へ向かった・・・

ここは・・・？  
**(後書き)**

初能力開花・・・ちよつと無理やりかな？

何だこの能力は・・・(前書き)

チート発揮です

何だこの能力は・・・

「・・・ハア・・・」

ため息が出る・・・

「何だこの能力は・・・」

アノ能力について色々試していたが・・・

「ただチートなんだよ、これ・・・」

やってみたのはこれだ。

・バリアを張ってみる・・・これはできた。ガンダムのGNフィールドだと思ってくれればいい。

・剣を出してみる・・・色々と出せたよ。剣、斧、槍、槌など・・・魔法みたいに碧色だったよ

・もしかして・・・と思い、あるものをイメージしてみた・・・

「・・・マジかよ・・・」

綺麗な翠色の翼が出たよ・・・

「色々と規格外だな・・・」

空も飛べちゃったし・・・

「・・・寝よ・・・」

俺は考えることを放棄した・・・

何だこの能力は・・・（後書き）

短すぎる・・・

とりあえず・・・(前書き)

短すぎるなあゝ文章が



とりあえず・・・

・・・あの謎の力は置いといて、とりあえず人のいる村でもさがそうか。

「・・・人っているかな・・・？」

そこが心配だ・・・

3時間後・・・

「・・・何もねえじゃねえかよ・・・」  
数時間歩いて人の気配がしないとか・・・

「・・・飛んでみようか。」

さっき出来たし・・・

「浮く・・・飛ぶ・・・うおっ」

・・・飛ぶって不思議な感覚だな・・・

「・・・飛べはしたは動けるのか？・・・」

試してなかった・・・orz

「・・・なるようになるか」

さらに2時間後くらい・・・

「・・・動けるようにはなったが、疲れるな・・・」

・・・こんなに疲れるものなのか？・・・

「・・・あれ？急に力が抜けて・・・こんな空のど真ん中で・・・」  
フツ↑何かがなくなる音

「うわあああああ」

俺は空から真っ逆さまに落ち、意識を失った・・・

とりあえず・・・(後書き)

タイピングがうまくいかない・・・  
(´・ω・｀)

知らない天井だ・・・（前書き）

・・・予定は予定は未定です

知らない天井だ・・・

・・・周りが薄暗い・・・

「・・・知らない天井だ・・・」

眼を開けると木の天井だった

「おや、目覚めたかい」

「・・・？」

・・・誰だ・・・？このごつい男は・・・

「お前さん、森の近くで倒れてただろ？」

「・・・ああ」

「そこをこの家の主のじいさんが見つけて、俺が運んできたのさ」

「そうですか・・・ありがとうございます」

「いやいや、気になさるな、困っているモンを助けたくなるのが爺の性さがでね」

・・・優しそうな老人だな・・・

「お前さん、なんであんなところで倒れてたんだ？」

・・・マズイ・・・どう言おう・・・

「・・・実はおれ・・・私は旅の途中でして、食料が尽き、謎の生き物に襲われあんな所に倒れてたんです」

「そうじゃったか・・・大変じゃったな・・・数日くらい休んでいくといい」

「・・・有り難うございます・・・」

「気にするな、ワシも一人暮らしじゃ、話し相手くらいにはなってくれよ？」

・・・いいお爺さんだ・・・

「っ・・・少し眠らせてください・・・」

「ああ、ゆっくり休むといい・・・」



知らない天井だ・・・（後書き）

次どうしよっかなうよかつたら意見をください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8185y/>

---

東方粒子黙

2011年11月29日14時48分発行